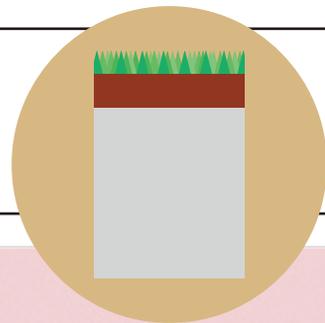


有機物集積表層型



特徴

- ・ 土壌断面の表層に暗い色の層がある。
- ・ 暗い色の層の厚さは8cm以内である。

解説

造成・改修後10年以内の比較的新しいグリーンでしばしば見られるケースで、サッチ・有機物の蓄積量に対し更新作業による除去が追いつかず、有機物が過剰に集積している状態です。

このような状態は、土壌過湿や排水不良を引き起こします。芝の根が浅くなるため乾燥害も起こりやすくなります。その他、夏場のベントグラスの衰退、雑草・藻類の侵入、病害発生に繋がる恐れがあります。またグリーン表面が軟化し、刈り込み時の齧りやボールマークがつきやすくなります。



対策

現在よりも更新作業の回数や更新面積率を増やし、集積した有機物を除去する必要があります。まだ問題の層が浅い位置にあるので、コアリングやバーチカルカットにより除去することで対処できるでしょう。合わせて十分な目砂散布と擦り込み作業を行い、有機物濃度を薄めることが重要です。目砂散布後にムク刃で砂を地中に押し込む作業や土壌中に砂を灌注するドライジェクトも有効です。問題の層位が深くなる前に十分な作業を行い改善しておきましょう。

また土壌が酸欠状態になりやすいため、毎月ベンティング（スライシング、スパイクング、ムク刃など）を行い、根に酸素を供給するとよいでしょう。有機物の軽減にはサッチ分解剤も有効です。なお梅雨から夏にかけて土壌有機物が急激に分解すると、窒素の暴発によってベントグラスの夏越しに悪影響を及ぼすおそれもあるのでサッチ分解剤の種類と使用時期には注意が必要です。